

高等部のある生徒の数学科授業の見直し

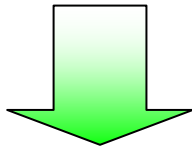
～生活に密着した学習活動の設定に視点を当てて～

特別支援教育班

金子 俊一（特別支援学校教諭）


自己課題設定の理由

本生徒は、形や色の弁別等、認知力を高める学習に取り組む段階にある。これまでは、数の概念獲得をめざした学習が繰り返行われてきた。しかし、高校生ということで卒業後の生活を踏まえた支援が必要な時期を迎え授業を見直すことにした。



生活に密着した学習を通して生活に生きて働く力を高めるような学習が適切と考え、できるだけ生活力に関わる具体的な場면을授業の中に取り入れて、学習活動を設定することにした。

自己課題解決策

- ・数の基礎となる認知の学習の実施
例 四角形と立方体など平面図形と立体図形を対応させる活動など
- ・生活に密着した活動の設定
例 コーヒーカップ：○、スプーン： 等のマークを手がかりに、茶器等を準備する活動
- ・行動の特性に関わる支援
例 本生徒の気持ちを共感的に受け止めるとともに、必要に応じて座席を一番前にするなど学習に集中できるような環境面の配慮
- ・他の指導形態との関連
例 牛乳運びの係活動に応用

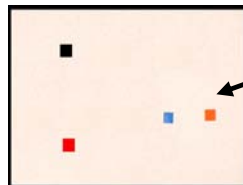
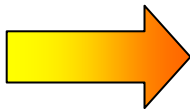
実践例

茶器類を位置に注意して置いていく活動



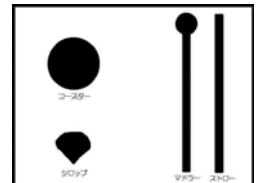
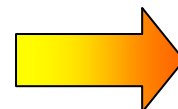
step1 見本や写真を見て並べる

すぐには、効果はあらわれなかったが、要領が分かったのか、5回程度しているうちに見本や写真を見ながら一人で配置ができるようになった。ただ、向かい合わせのテーブルにも同じように置いてしまう傾向が見られた。



step2 マークを見て並べる

置く場所と置く物と同じマークのシールを貼ることで正しい所に置けるようになることを目指した。はじめのうちは意味がつかめていなかったが、3回ほど行なう中でほぼ理解し、同じマークを対応させて正しい位置に物を置くことができるようになった。



step3 シルエットを見て並べる

コップなどのシルエットを描いてある台紙を敷いて、そこに茶器類を配るようにした。今回は1回しただけで、レイアウトどおりに置くことができた。シルエットを描いた台紙が置いてあるので、反対側にあっても向きを正しく置くことができた。

具体的実践から得たもの

* マークやシルエットを見て、茶器を並べたり、数をまちがえずに牛乳を箱に入れたりすることができるようになった。

* 日常生活の活動にマークを導入することの有効性が確認できた。

* 環境面の配慮の有効性が確認できた。

研修の成果と課題

- マークを手がかりにできる活動の幅が広がった。
- いかに移行支援していくかを検討していきたい。

担当指導主事 特別支援研究係 木村 隆美